

地域版地域ケア会議実施報告

令和7年度 世田谷 地域	
地域版地域ケア会議の開催状況	
地域ケア連絡会としての開催 9 回	
■地域ケア連絡会（コア） 5回 ・参加者：あんしんすこやかセンター、総合支所（地域振興課、保健福祉課） ■地域ケア連絡会 2回 ・参加者：あんしんすこやかセンター、世田谷地域社会福祉協議会、ぽーと世田谷（地域障害者相談支援センター）、世田谷ボランティアセンター、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、保健福祉政策課、生活福祉課、介護予防・地域支援課、介護保険課、総合支所（地域振興課、生活支援課、健康づくり課、子ども家庭支援課、保健福祉課） ■地域版地域ケア会議 2回 ・参加者：あんしんすこやかセンター、世田谷地域社会福祉協議会、ぽーと世田谷（地域障害者相談支援センター）、世田谷ボランティアセンター、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、保健福祉政策課、介護予防・地域支援課、総合支所（地域振興課、生活支援課、健康づくり課、子ども家庭支援課、保健福祉課）、各地区の四者（まちづくりセンター、地区社協、あんしんすこやかセンター、児童館）	
抽出された地域課題（※前年度から継続する地域課題を含む）	
カテゴリー	テーマ
地域づくり	四者連携による「まちづくり」と個別事例の集積による「まちづくり」の一体的な地域づくり
内容：内容：個別事例から集積した課題及び四者連携による地区課題の解決に向けた取組みを一体的に展開し、地域全体で有機的な地域づくりをさらに推進する必要がある。	
地域での担い手不足	地域で活動する新たな人材発掘の取り組み
内容：内容：町会・自治会、民生委員などを含め地域で活動する人材の高齢化や1人の人材が複数の役員を担っている現状がある。子ども、高齢者、障害者等の各々のネットワークを地域全体で連携し、子ども世代の人材活用など新たな人材を発掘していく取り組みが必要。	
防犯・防災	災害に強いまちづくり
内容：災害に関する自助・共助のさらなる普及が必要であり、発災時の地域区民組織及び各関係機関等とまちづくりセンター（拠点隊）、総合支所の保健福祉課（避難支援班）、災対地域本部等の役割や安否確認の動きが双方で十分に把握できていない現状がある。	
制度の狭間	各種支援サービスの対象、要件に該当しない人への支援
内容：介護保険、障害者自立支援法、生活保護など各制度のサービス要件に該当しないが、明らかに支援が必要な人の対応に苦慮している現状がある。このため、制度の狭間を整理し、地域で取り組める具体的な解決策について検討するとともに、全区で取り組むべき政策については全区版ケア会議に提案していく必要がある。	
複雑・複合化した事例	多問題事例における各関係機関との連携強化
内容：ごみ屋敷、近隣苦情、8050問題など事例が複雑化しており、未治療、引きこもり、支援拒否などが多岐にわたり、支援する機関数も多い。このため、支援機関ごとに役割やアプローチが異なるため、連携のタイミングを逸したり、情報共有がスムーズにいかず、連携が十分でない場合がある。	

地区・地域等による取組み	
地域課題	取組み状況
・地域全体で取り組む地域づくりの推進 ・介護保険法に基づく計画のほか、地域保健医療福祉総合計画、地域行政推進計画のもと、「誰もが安心して暮らせるまちづくり」を地域全体で有機的に推進していく必要がある。	地域版地域ケア会議において、地域振興課と合同で「地域版地域ケア会議」を開催し、各地区の四者連携による「まちづくり」及び個別事例の集積による「まちづくり」を一体的に展開する意識の醸成を図った。そして、先行して取り組んでいるより良い活動を地域全体に波及できるよう、7地区の取組み状況を一覧表にし（見える化）、四者と関係機関等で情報共有及び意見交換を行い、地域全体の質の向上に取り組んだ。
・制度の狭間の人への支援 ・所謂「制度の狭間」と称する、各制度の支援サービスの対象や要件に該当しない個別事例を整理し、制度の狭間を解消できるよう、地域で取り組める具体的な社会資源開発について検討する。	地域ケア連絡会のコア会議及び地域ケア連絡会において、地域で取り組める具体的な社会資源開発として、①「身寄りがいない方の在宅支援に関するガイドライン」作成の提案 ②「認知機能障害の方へのボランティアによる移動支援事業の立ち上げ」について検討し、地域課題の解決に取り組んだ。
・複雑・複合化した事例への支援 ・ごみ屋敷や近隣苦情（妄想性障害等の精神疾患に起因したトラブル等）、8050問題など、事例が複雑化しており、重度化予防を含めた対応のスキルアップが必要である。	地域ケア連絡会のコア会議及び地域ケア連絡会において、全区展開される新たな施策（終活支援センター）や既存の各種事業（福祉緊急対応支援の特別支援チーム、多機関協働事業等）について改めて学ぶと共に意見交換を重ね、複雑・複合化した事例への包括的な支援体制の強化を図った。
今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）	
＜今後の方向性＞ ・地域包括ケアシステムの推進にむけて、引き続き、あんしんすこやかセンターや関係部署、児童館を含めた四者との連携強化を図り、福祉保健領域及び区民生活領域の地域全体で有機的な地域づくりを推進していく。 ・福祉緊急対応支援の「特別支援チーム」や世田谷区終活支援センター等の新たな事業を通して制度の狭間や複合化した問題に対して包括的な支援体制を整備し、早期に介入支援を図るとともに、支所によるあんしんすこやかセンター等へのバックアップ体制の強化を継続していく。 ＜残された課題＞ ・発災時の地域区民組織及び各関係機関等とまちづくりセンター（拠点隊）、総合支所の保健福祉課（避難支援班）、災対地域本部等の役割や安否確認の動きについて連携強化を図り、災害に強いまちづくりに取り組んでいく。 ・世田谷版地域包括ケア10年の歩みを踏まえ、世田谷版地域包括ケアシステムのさらなる推進に取り組んでいく。	

地域版地域ケア会議実施報告

令和7年度 北沢 地域

地域版地域ケア会議の開催状況

地域ケア連絡会としての開催 9 回

参加者（所属）：

あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、成年後見センター、ぷらっとホーム世田谷、北沢地域障害者相談支援センター、介護予防・地域支援課、健康づくり課、保健福祉課

地域合同包括ケア会議としての開催 2 回

参加者（所属）：

1回目：あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、成年後見センター、ぷらっとホーム世田谷、北沢地域障害者相談支援センター、ケアマネジャー、相談支援事業所、健康づくり課、介護予防・地域支援課、保健福祉課

2回目：あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、成年後見センター、ぷらっとホーム世田谷、北沢地域障害者相談支援センター、ケアマネジャー、相談支援事業所、町会・自治会、民生・児童委員、マンション管理人や一般商店の方々、介護予防・地域支援課、保健福祉課

テーマ：

「地域でつながる北沢～その時に備えて支え合おう～」をテーマに、主に8050世帯や孤立した世帯への支援について、事例を通したグループワークを通して関係機関とのネットワークの構築を図った。

抽出された地域課題（※前年度から継続する地域課題を含む）

カテゴリー	テーマ
8050	親亡き後の家族支援
内容：キーパーソンであった親亡き後に、8050世帯が抱える何らかの課題が表面化・顕在化するケースが多い。課題が表面化・重大化する前に、様々な支援者が本人やその家族につながる必要がある。	
孤立・介入困難	様々な課題の根底にある「孤立」への対応
内容：サービスの介入拒否、精神疾患の疑い、本人の問題意識の低さなどから、個人単位、世帯単位で地域からの孤立がある。気になる世帯への介入が困難であり、事態が悪化してから顕在化することが多い。	
認知症・精神疾患	認知症や精神疾患の疑いのある方への対応
内容：認知症を含め何らかの精神疾患が疑われる方の相談が増えている。高齢者や家族への介入や対応が困難。医療機関や専門機関、地域とのつながりが必要である。	
防犯	特殊詐欺、防犯対策
内容：高齢者を取り巻く犯罪としては特殊詐欺が多い状況であり、詐欺を未然に防ぐようにするため、支援者を含め関係機関が特殊詐欺の傾向や対策等を知ってもらう必要がある。	
防災	震災発生時の対応
内容：災害時に具体的に何をすべきか、避難行動要支援者に対する支援について、具体的な方法や関係機関との連携体制や役割分担について整理をしておく必要である。	

地区・地域等による取組み	
地域課題	取組み状況
8050世帯への支援 キーパーソンの親亡き後に、8050世帯が抱える課題が表面化するケースが増えており、課題が表面化する前に、キーパーソンが元気なうちに、支援者が本人やその家族とつながることが重要である。	7月の拡大版地域ケア連絡会において、ケアマネジャーや相談支援事業所の相談支援専門員に参加をいただき、「8050世帯が抱える課題に対して地域生活を継続するためにできることは何か」をテーマに、事例をもとにグループごとに意見交換を行った。複合的な課題が内在している世帯への支援にあたっては、支援者間で早めに情報共有・役割分担をしてチームで支援することの重要性を再確認した。
孤立した世帯への支援 サービスの介入拒否などで地域から孤立するケースで、特に精神疾患と思われる方の相談が増えており、支援者だけではなく地域の方にも精神疾患への理解を深めてもらうことも地域での見守りという視点で意義がある。	12月の地域ケア連絡会において、孤立する世帯の背景や心理について、公認心理師より講義を行った。 さらに、1月の地域合同包括ケア会議において、ケアマネジャーや相談支援専門員に加え、町会・自治会長、民生・児童委員、マンション管理人、一般商店の方にも参加をいただき、「孤立した世帯との関わり方を考える～地域でつながり、支え合うために～」をテーマに、前半は精神科医による精神疾患に関する講義、後半は精神疾患が疑われる方にどう対応するかについてグループごとに意見交換を行った。
防犯・防災 住み慣れた地域で安心・安全に暮らし続けられるよう、防犯・防災に関する日頃の備え等を含め、支援者間で共通認識を持つ必要がある	10月の地域ケア連絡会において、北沢警察署生活安全課より特殊詐欺について、区地域生活安全課より区の防犯対策について講義を行い、最新の被害状況や具体的な手口等を知ることができ、支援者としての学びにつながった。 また7年度は、地域ケア連絡会（定例）において、防災講義を盛り込むようにし、避難行動要支援者支援を含め防災意識の向上に努めた。
今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）	
〈今後の方向性〉 ・令和8年度も引き続き、「地域でつながる北沢～その時に備えて支え合おう～」をテーマに、関係機関や地域の方とのさらなるネットワークの構築を進めていくとともに、この2カ年の取組みの成果を北沢地域の関係者に広く共有する機会を設ける予定である。 〈残された課題〉 ・高齢以外の子ども、障害者等の各ネットワークとの連携。 ・四者連携会議による地区課題解決の取組みとの連携。 ・避難行動要支援者の支援を含め、震災発生時の対応についての基礎的知識の普及啓発。	

地域版地域ケア会議実施報告

令和7年度 玉川 地域

地域版地域ケア会議の開催状況

地域ケア連絡会としての開催 10 回

参加者（所属）：あんしんすこやかセンター、玉川地域障害者相談支援センター(ぽーとたまがわ)、玉川地域社会福祉協議会、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、介護予防・地域支援課、健康づくり課、保健福祉課 ※内容によって、玉川警察署、生活支援課が参加。
 地域版地域ケア会議（地域課題の検討）9回、地域ケア連絡会（コア会議）1回

地域版地域ケア会議（拡大）としての開催 1 回

参加者（所属）：障害者施設、障害居宅介護、主任ケアマネジャー、訪問看護事業所、あんしんすこやかセンター、玉川地域障害者相談支援センター(ぽーとたまがわ)、玉川地域社会福祉協議会、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、民生委員、介護予防・地域支援課、生活支援課、健康づくり課、保健福祉課

テーマ：ヤングケアラーを地域で支える～知ることから始まる第一歩～
 子ども家庭課及びヤングケアラーコーディネーターの講演により、ヤングケアラーへの理解を高めることや、グループワークを通してヤングケアラーとの関わり方を支援者同士で意見交換し、連携強化を図る機会とした。

抽出された地域課題（※前年度から継続する地域課題を含む）

カテゴリー	テーマ
セーフティネットワーク	緊急時におけるセーフティネットワークの構築
内容：「身寄りのない独居高齢者」「認知症高齢者」が増え、安否確認等の緊急対応も増加傾向にある。警察・消防や福祉関係の担当者が代わると対応方法に変化が生じることもあり、緊急対応時等の連携について警察・消防と継続した関係づくりが難しい。	
カテゴリー	テーマ
連携・制度の狭間	複雑・複合化した多問題ケースの支援
内容：8050・精神疾患・ごみ屋敷・キーパーソン不在や身寄りなし・経済的問題など、複数の問題が絡まりあい支援の長引く多問題ケースが増えている。特別支援チームや多機関協働事業等は整えられつつあるが、問題の複雑・複合化を予防するための仕組みが必要である。	
カテゴリー	テーマ
認知症・居場所	認知症への理解促進
内容：認知症の方は地域とつながりづらく、外出するきっかけを失いがちである。独居高齢者も多く、関わるタイミングが遅れると認知症が進行してしまい、生活に支障が生じてしまう事例も見られる。	
カテゴリー	テーマ
居場所	居場所づくりと継承
内容：地域で気軽に集まることができる居場所づくりとグループ立ち上げ後の担い手不足や継承の難しさ、場所提供については協力体制の地域差が生じている。	

地区・地域等による取組み	
地域課題	取組み状況
カスタマーハラスメント 地域の高齢者を支援する中で、その家族との関わりは必須であるが、近年社会的問題となっている「カスタマーハラスメント」の対応に苦慮しているケースが増え、働き手の大きな精神的負担となっている。	<地区・地域> 玉川地域主任ケアマネ連絡会を開催し「カスタマーハラスメント防止の基礎知識」に関する勉強会を開催し、その定義やスキルについて問題の深刻化の予防と連携することの重要性について学んだ。
情報発信方法と周知活動 多世代に向けてあんすこの存在や役割を知ってもらふ場の充実と、デジタル媒体での広報活動が普及する一方で、情報格差が生じ、孤立や情報弱者化が進んでいる。	<地区> 地域で開催する講座や相談会の周知方法については、ホームページやLINE等のデジタル媒体での広報活動が効果的である結果となった。一方で、情報格差の現状や課題把握をおこない、地域や専門職と共有した。
セーフティネットワークの構築 「身寄りのない独居高齢者」「認知症高齢者」が増え、安否確認等の緊急対応も増加傾向にある。警察・消防や福祉関係の担当者が代わると対応方法に変化が生じることもあり、緊急対応時等の情報共有や連携について警察・消防と継続した関係づくりが難しい。	<地区・地域> 玉川警察署（生活安全課・ふれあいポリス）と継続した関係づくりと互いの業務と役割について理解することを目的に、2月の地域ケア連絡会で意見交換を行った。業務内容や緊急対応時の必要な情報と共有の方法、介入のタイミングなどを理解することができた。次年度以降も定期的に連絡会を開催し連携を図っていく。
認知症への理解促進 認知症の方は地域とつながりづらく、外出するきっかけを失いがちである。独居高齢者も多く、関わるタイミングが遅れると認知症が進行してしまい、生活に支障が生じてしまう事例も見られる。	<地区> ・「誰もが安心して暮らせる地域」を目指し、『RUN伴』を実施、事業所や地域の方々との交流を図ることができた。 ・「認知症カフェ」を定期開催しており、協力店舗数や参加人数が増加。地区内の事業者やボランティアも参加し、相互理解の機会となった。
今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）	
カテゴリー	テーマ
●今後の方向性 ・令和7年度は、高齢者が地域で安心安全に暮らし続けられる事や孤立死等を未然に防ぐため、「警察署との連携」をテーマに、連携を妨げる要因等の課題整理を行い、課題解決に向けた取組みについて検討を行った。具体的に取り組む地域課題を「セーフティネットワーク」に決定し、警察に、あんしんすこやかセンターや社会福祉協議会の存在や役割を知ってもらふ具体的な取組みについて検討を重ねている。引き続き課題解決PTにて、玉川管轄の交番や警察署が、対応に苦慮する高齢者を福祉の窓口につなげるためのツールの作成を進め、ツール作成後は評価検証に取り組む予定である。	
●残された課題 【複雑・複合化した多問題ケースの支援】 8050・精神疾患・ごみ屋敷・キーパーソン不在や身寄りなし・経済的問題など、複数の問題が絡まりあう多問題ケースが増えている。高齢者本人のみならず、その家族も同様の問題を抱えているケースが散見され、支援が長引き、支援者側も疲弊している。 【ケアマネのシャドーワーク】 身寄りがなくキーパーソン不在ケースにおいて、ケアマネが入退院や介護保険外の事務手続き・金銭管理等、生活を送る上で必要な諸々の支援を親族に代わってケアマネがやむを得ず担っている場合がある。ケアマネ業務以外の支援をどこまで行うべきか、またその業務を誰が担うのかが課題。	

地域版地域ケア会議実施報告

令和7年度 砧 地域	
地域版地域ケア会議の開催状況	
地域ケア連絡会としての開催 9 回	
参加者（所属）： あんしんすこやかセンター、地域障害者相談支援センター、砧地域社会福祉協議会、成年後見センター、ボランティアビューロー準備室、健康づくり課、介護予防・地域支援課、保健福祉課 テーマにより、上記のほか成城警察署、成城消防署、支所内関係各課が参加。	
地域合同包括ケア会議としての開催 2 回	
参加者（所属） 1回目：あんしんすこやかセンター、主任ケアマネジャー、社会福祉協議会、保健福祉課 2回目：あんしんすこやかセンター、主任ケアマネジャー、ケアマネジャー、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、医療ソーシャルワーカー、保健福祉課	
1回目テーマ：砧地域主任ケアマネジャー交流会 内容：社会福祉協議会による取組事例の紹介および社会資源の活用・創出をテーマとしたグループワーク 2回目テーマ：医療と福祉の連携懇談会～顔の見える関係づくり～ 内容：医師による疾病に関する講義、多職種によるグループディカッション	
抽出された地域課題 （※前年度から継続する地域課題を含む）	
カテゴリー	テーマ
連携、制度	「多職種連携が必要な複合的な課題を持つ家族への関わり」
内容：いわゆる8050世帯において浪費や多重債務、サービス利用に対する抵抗、子の就労問題など複合的な課題を有する事例については、課題整理を含めた支援体制の構築が難しい。多様かつ専門的な相談窓口の活用を支援するとともに、対象世帯が気軽に相談できる窓口や伴走のかつ継続的に支援できる制度が求められている。また、地域からの孤立を解消していくなど、インフォーマルな社会資源との連携も重視しながら支援していく必要がある。	
地域活動、理解	孤食している認知症独居高齢者 ～栄養バランスに配慮した共食できる場がない～
内容：民間の出前・宅配サービスの充実などにより、個々の嗜好に応じた食事が確保できるようになった一方、孤食が続くことでの精神的な不安から生活全般への意欲低下をきたす事例がみられる。食に対する多様な価値観を充足するサービスは整いつつあるが、栄養状態の評価等を含め、食を糸口に孤立やフレイルを予防する機会が求められている。 また、子ども食堂等との連携など、地域で楽しみを持ちつつ、食を含めた交流の場を提供する取組みが求められている。	
制度、理解	認知症高齢者の自転車移動について
内容：自転車自体は高齢者に有用な外出手段であり、買い物や通院などの社会参加を維持する重要な役割を有する。一方で、認知機能や身体機能の低下による転倒等の事故もみられている。 一部では代替できる交通手段の確保が難しい地域もあることから、引き続き警察等と連携し交通ルールの遵守や身体状況等に応じた危険性を周知していくことが求められている。 また、交通が不便な地域においては移動販売などの拡充を図るとともに、オンデマンド交通などの代替手段の活用を検討していく必要がある。	

地区・地域等による取組み	
地域課題	取組み状況
地域活動、普及啓発 高齢化率が高い大規模団地などにおける防災対策については、地域により差がある。 各地域の取組みなどについて共有を図り、地域における取組みのあり方を検討する必要がある。	喜多見あんしんすこやかセンターと連携し、喜多見地区内の自治会が主催する防災訓練へ保健福祉課として参加し、災害時要援護者に対しての支援策について、自治会等と協力し検討を行った。 また、参加経過や把握された課題等に関しては、地域ケア連絡会において共有し、他地区での取り組みの参考となるよう周知啓発を行った。
連携、制度 8050世帯等において、高齢者の支援者と50世帯の支援者の間において、制度や支援の視点に相違があり支援者間の連携が円滑に進まないことがある。	高齢領域と障害領域の支援者が顔の見える関係が作れるよう、世田谷区保健センターの協力を得て「世田谷区保健センター見学会～障害福祉と高齢福祉の連携～」を開催した。センター事業の活用方法を知周知するとともに、相談支援専門とケアマネジャーを中心に意見交換を行った。参加者は相互に接点を持つ必要性を感じており、課題への関心が高いことがうかがえた。(地域の取組み)
連携、理解 外国人居住者の福祉制度の利用や孤立予防、地域社会への参加促進などについては、事例数は少ないものの顕在化しつつある課題となっている。 外国人の多様な文化的・社会的背景を踏まえ、どのような実践が求められているかについて共有・検討する。	「外国人居住者に対する支援のあり方」と題し、学識経験者による講義およびグループワークを行った。また、支所関係機関から外国人居住者に関わる支援事例を集約し、事例に基づく意見交換を行った。 講義においては、多様性を理解する視点について体験的なグループワークを行い、支援者としての自己覚知の重要性について理解を深めることができた。 なお、本課題については第2回砧地域包括ケア連携会議と合同実施とし、地域振興課と共催した。(地域の取組み)
今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）	
<今後の方向性> ・昨今は地区から抽出される課題も類似の内容のものが多くなりつつあるが、新たな民間サービスやIT化を背景に課題の具体的な内実が多様化、複雑化している。今後とも、これまで上がってきた課題の中から取組むべきテーマを峻別しつつ、将来的に対応を求められる潜在的な課題についても地域課題として取り上げていく。 また、テーマによっては高齢分野にとどまらず他分野（障害児・者や子ども、外国人など）との連携ができるよう継続して取り組んでいく。加えて、多様な会議体との合同開催も検討し、地域包括ケアシステム全体の推進に繋げるための効果的な手法を見極めていく。 <全区レベルで検討が望まれる課題等> ○外国人居住者の支援について ・外国人居住者が適切に福祉サービスにつながるには、多言語による情報提供などに加え、当事者や支援者が共に文化的な差異などに対する理解を深めることが求められている。 やさしい日本語などの研修実施とともに、当事者と支援者が価値意識を振り返り、歩み寄ることのできる機会の提供が望まれる。 ○高齢者の自転車移動について ・自動車免許の自主返納については一定程度の理解がなされてきているが、交通が不便な地域では自転車が不可欠な代替手段となっている。一方で、身体機能や認知機能の低下した高齢者の転倒等の重大事故も生じている。自転車が一定の社会参加の手段であることは重視しつつも、他の移動手段の創出（シェアライドの推進・移動支援、同行サービス・コミュニティバス等）が求められている。 ○災害時要援護者の避難について ・デジタル情報に関する認知度やアクセスが十分でないなか、避難情報等が迅速に行き届かない事態も想定される。引き続き、デジタル媒体以外の周知手段の確保とともに、デジタル情報へのアクセスのしやすさ（勉強会など）を提供していくことが望まれる。	

地域版地域ケア会議実施報告

令和 7 年度 烏山 地域

地域版地域ケア会議の開催状況

地域ケア連絡会としての開催 7 回 (開催日当日台風により 1 回中止)

参加者(所属): 上北沢・上祖師谷・烏山あんしんすこやかセンター、烏山地域社会福祉協議会事務所、烏山地域障害者相談支援センターぽーとからすやま、成年後見センター、成年後見区民後見人、ぷらっとホーム世田谷、訪問看護ステーション芦花、特別養護老人ホーム久我山園、松沢病院、烏山病院、タンドル南烏山、久我山病院ケアオフィス、子育て支援コーディネーターぶりっじ、上北沢・烏山まちづくりセンター、烏山ボランティアビューロー、せたがや災害ボランティアセンター、ぶんぶくテラマチ、保健福祉センター長、健康づくり課、子ども家庭支援課、生活支援課、介護予防・地域支援課、地域振興課 計画・相談、保健福祉課長、保健福祉課(地域支援、障害支援)、前日本大学文理学部社会福祉学科教授

地域合同包括ケア会議としての開催 1 回

参加者(所属): 烏山地域内の団体、区民、事業者、支援者、行政関係者 (民生児童委員、特別養護老人ホーム、病院、町会自治会連合会会長、障害関係事業所、ボランティア関係、主任ケアマネジャー、デイサービス、商店街、駐在所、消防、烏山地域高校・中学、子ども食堂、Qs garden、ネット・わあ〜くショップなど)
55 団体 参加者 57 名+事務局 11 名 (上記地域ケア連絡会の出席者含む)

テーマ: ☆つなぐ烏山☆ 烏山交流・名刺交換会と合同開催

② ☆つなぐ烏山☆の活動報告

②【個人情報】をテーマにグループワーク

③参加団体の交流タイム

抽出された地域課題 (※前年度から継続する地域課題を含む)

カテゴリー	テーマ
医療・制度	発達障害を疑われる高齢者の支援
内容: 発達障害、認知機能の低下が疑われ、頻回に多機関に相談を繰り返している方への対応について検討する。	
医療・制度	精神疾患のある高齢者の他科疾患併発の際の支援
内容: 支援者が入院相当との見立てを持ちつつも、入院につながらない独居高齢者に対して、どのような支援ができるか。	
権利擁護・制度	個人情報の保護と見守りの両立
内容: 地域でトラブルがあった時、関わる住民間で特定の個人情報をどこまで共有してよいものか。	
見守り	介護者が被介護者に依存している世帯への支援
内容: 老老介護準備段階における親子が地域で暮らし続けるために、どのような支援が必要か	
見守り	緊急時の備えのない高齢者への支援
独居で関わりのある親族がいない人が、いざという時に支援者はどのように支援するのが適切か	

地区・地域等による取組み	
地域課題	取組み状況
過年度の検討課題の振り返り 地区・地域での課題に対する取り組みをより明確にするために適宜振り返りを行い、新たに出てきた課題の検討、効果のあった取り組みについて共有することで、地区・地域における活動を更に発展させる必要があると考える。	・「８０５０問題」に関しては、「ぽーと会議」を定期的に行うことで、世帯の状況変化を正確に捉え、必要な支援の方向性を確認することが出来ている。 ・制度の移行に関しては「移行会議」を行うことで、高齢・障害の支援関係者間で情報を共有し、移行に向けての方針決定等を行っている。 ・身元保証に関しては、「熱中症予防シート」に緊急連絡先等の記入欄を追加したものを烏山独自で作成して配布した結果、全区で共通したシートとなった。 熱中症予防シートについては、目に見える成果でもあるため、地区・地域から発信しようというモチベーションになっている。
個人情報の保護と見守りの両立 見守りを行う上で必要となる、当事者の個人情報について、法令等の制約を懸念するあまり、支援者間でのやり取りができにくくなっている。 特に安否確認など、急を要する場合に、情報を知りたい支援者と、伝えたくても伝えられない支援者との間でジレンマがあり、トラブルとなるケースも発生している。	・法令や区の見守り制度等を正しく知ることから始めることとし、保健福祉政策課や高齢福祉課の担当係長に講話を依頼し、学びを深めた。 ・地域でできる見守りについて、烏山交流・名刺交換会の場も含め、関係者間で意見交換を行った。
今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）	
＜今後の方向性＞ ・今年度、『個人情報の保護と見守りの両立』をテーマに、東京都住宅供給公社等の協力を得て各団体と実際にあった出来事などを共有したが、今後も個人情報の取り扱いが壁となってスムーズに支援ができないケースが出てくることが予想されるので、検討していく課題であると考え。 ・来年度は『金銭管理ができない高齢者への支援（制度のはざま）』というテーマ取り上げる。認知機能の低下やギャンブル・買い物依存など様々な要因で金銭管理が出来なくなり、経済的に破綻しているものの、既存の制度では支援が難しい高齢者が増えている。 この課題に対して、早期発見・早期対応など支援者ができる事やどのようなサービスが必要なのか、検討していく。 なお、本課題は問題が複雑かつ多岐にわたるため、2か年にわたって検討する予定である。	